



狂犬病予防注射のお知らせ



狂 狂犬病予防注射の巡回(集合注射)を別表のとおり行います。犬の新規登録・住所等の変更届・犬の死亡届も同時にさせていただきます。

注射は市内のどの会場でも受けられます。(甲賀市以外の登録犬については事前にご相談ください。)また、動物病院でも随時受けることができます。(注射手数料は下記と異なる場合があります。)

【持ち物】

登録済の場合

- 犬の登録カード(愛犬カード)
- 「狂犬病予防注射のお知らせ」ハガキ
- 予防注射手数料(3,200円)

新規登録の場合

- 登録料(3,000円)
- 予防注射手数料(3,200円)

※費用はつり銭のないようにお願いします。

注意事項

注射予定日の前に

- 注射予定日約1週間前から犬をよく観察して健康チェックをしておいてください。
- 病犬や老犬、健康に不安のある犬は事前に動物病院での健康診断受診をおすすめします。
- 冬産まれの子犬は各種のワクチンが同時期に重なります。副作用の防止には一定の接種間隔が必要です。事前にかかりつけ病院に相談してください。
- 生後90日以内の犬や妊娠中または出産後間もない犬は接種できません。

集合注射の当日

- 安全のため小さなお子さんの同行は避けてください。
- 事故防止のため、犬を十分制止できる人が連れてきてください。
- 不安や緊張から攻撃的になってしまう犬には口輪を使用してください。
- リードから離れて犬が脱走しないよう注意してください。リール式リードはストッパーをかけてください。

注射を受ける前に

- 注射の前に獣医師による問診がありますので正確に教えてください。
- 病気など気になる症状がある場合や、過去に注射などで体調を崩したことがある犬は必ず事前に申し出てください。体調に問題があるときにワクチン注射を受けると、生命に関わる可能性があります。

注射の受け方

- 獣医師の指示のとおり犬を保定(しっかりおさえること)してください。お尻または首に注射するのが基本ですが場合によってはその他の部位に注射します。
- 安全で確実な保定をするには犬の首と頭、胴体をしっかりおさえます。
- 犬がじっとしていれば注射は一瞬で済みます。注射のあとも犬が暴れないように注意してください。
- 飼い主自身が犬に噛まれないように気をつけてください。

狂犬病と予防対策

昨年、海外からの帰国者で、狂犬病の輸入感染症例が相次いで2例確認されました。日本においては昭和33年以降狂犬病の発生はなく、いずれも海外の狂犬病流行地域で犬に咬まれたために感染したと考えられています。

狂犬病はすべての哺乳動物が感染しますが、人に狂犬病を感染させるおそれのある動物としては犬が一番危険性が高いとされています。なぜなら、犬は狂犬病ウイルスに対する感受性が高い上、人間に一番身近な動物だからです。世界の流

行地を見ても、犬による狂犬病が一番多いのはこのためです。

そこで、狂犬病予防法に基づいて、飼い主は必ず飼い犬の登録をして所在を明らかにし、飼い犬に狂犬病予防ワクチンを毎年1回接種しなければなりません。

国内に狂犬病が発生していないからといって油断は禁物です。海外との流通が盛んな現代では、いつ狂犬病ウイルスを持った動物が侵入しないとも限りません。